

令和5年度事業報告書

I. 法人名称 学校法人弘前厚生学院

II. 事業目的 すべての国民の健康と社会福祉のために貢献し得る人材を養成する。

III. 教育活動による事業

1. 弘前厚生学院の設置運営（保育士・介護福祉士養成専修学校）

※2学年は大阪芸術大学短期大学部通信教育部併修（幼稚園教諭二種免許取得）

※1学年は小田原短期大学通信教育部併修（幼稚園教諭二種免許取得）

2. 基本方針

関連する法令に従い、「愛と奉仕」の建学の精神に基づき、保育及び幼児教育、介護福祉に関する専門的な知識と技術を修得し、社会に貢献し得る有能な人材を育成するために教育内容の充実を図り、学生募集を推進する。

3. 在学生の状況

【単位：人】

		備 考
こども学科（定員1学年25、2学年40）		
受 験 生	21（うち男子3）	
第1学年 再就職訓練生1年	16（うち男子3） 4（うち男子0）	
計	20（うち男子3）	
第2学年 再就職訓練生2年	20（うち男子1） 7（うち男子0）	
計	27（うち男子1）	
こども学科計	47（うち男子4）	
介護福祉科（定員10）		
厚生学院から進学	12（うち男子4）	
他校等から進学	0（うち男子0）	
介護福祉科計	12（うち男子4）	
合 計	59（うち男子8）	

令和5年度弘前厚生学院卒業生の進路状況調査書

() はうち県外就職者数

【単位：人】

	こども学科 卒業生計27人	介護福祉科 卒業生計12人	備 考
保 育 園 幼 稚 園 認定こども園	19 (6)	4 (0)	
児 童 館 等	0 (0)	0 (0)	
児童養護施設	1 (0)	2 (0)	
社会福祉協議会	0 (0)	0 (0)	
障害者(児)施設	6 (0)	1 (0)	
病 院 等		0 (0)	
特別養護老人ホーム		5 (0)	
老人保健施設		0 (0)	
有料老人ホーム		0 (0)	
ケ・ルーフ°ホーム		0 (0)	
事業所内託児施設	0 (0)	0 (0)	
一般企業	0 (0)	0 (0)	
就職者計	26 (6)	12 (0)	過去22年連続就職率100%達成
就 職 率	100%	100%	
進 学	1		青森中央短大 福祉専攻

～ 当該年度に本学院で受付した求人票の集計 ～

☆保育系施設の求人票 335件 (うち青森県内の施設 68件 約20%)

☆介護系施設の求人票 94件 (うち青森県内の施設 29件 約27%)

4. 離職等再就職訓練事業（訓練科名 保育士養成科）
在籍訓練生 1年生4人 2年生7人 計11人
5. 私学振興対策経常費補助金
6. 私立専門学校授業料等減免事業の機関認定
7. 施設、設備等の整備
 - ①第一校舎2つの教室の壁修理
 - ②各種教材の点検整備
8. 設備、機器、教材等の整備
9. 研修会及び研究活動等
 - ①研修旅行（1学年、2学年）
 - ②施設見学（近隣施設）
10. 広報活動
※令和6年度以降の学生募集停止

11. 弘前厚生学院の年間行事等

	こども学科	介護福祉科
4月	2学年保護者等説明会 入学式 オリエンテーション 健康診断 スクーリング	入学式 オリエンテーション 健康診断
5月	交流授業 献血 幼稚園実習（2学年） スクーリング 避難訓練	交流授業 献血 避難訓練
6月	保育施設実習（2学年）	
7月	保育実習等・実習報告会（2学年） スクーリング	前期試験
8月	夏季休業 スクーリング 保育実習（2学年）	介護実習 夏季休業
9月	前期試験（1学年） 保育実習（2学年） 救急救命講習（1学年） スクーリング	介護実習
10月	保育園実習（2学年） 保育実習報告会他（2学年） 保育実習引継報告会（1・2学年） 福祉施設見学（1学年） スクーリング	介護実習
11月	献血 スクーリング	献血
12月	避難訓練 スクーリング 後期試験（2学年） 冬季休業	避難訓練 冬季休業
1月	冬季休業	冬季休業 介護福祉士国家試験
2月	後期試験（1学年） 卒業判定会議 進級判定会議 卒業公演「Thanks Nursery Stage」 スクーリング	後期試験 卒業判定会議 卒業公演「Thanks Nursery Stage」
3月	卒業証書授与式 春季休業	卒業証書授与式

12. 日本学生支援機構奨学金の貸与を受けている学生（合計35人 学生全体比約60%）

①こども学科1年生 計7名

ア. 給付型 第Ⅰ区分2名

（うち貸与型第一種及び貸与型第二種との併給0名）

イ. 給付型 第Ⅱ区分1名

（うち貸与型第一種との併給1名）

ウ. 給付型 第Ⅲ区分1名

（うち貸与型第一種との併給1名）

エ. 第一種の貸与4名（うち第二種との併給1名）

オ. 第二種の貸与1名

②こども学科2年生 計20名

カ. 給付型 第Ⅰ区分3名

（うち貸与型第一種及び貸与型第二種との併給0名）

キ. 給付型 第Ⅱ区分2名

（うち貸与型第二種との併給2名、貸与型第一種と第二種併給2名）

ク. 給付型 第Ⅲ区分1名

（うち貸与型第一種及び貸与型第二種との併給0名）

ケ. 第一種の貸与7名（うち第二種との併給1名）

コ. 第二種の貸与1名

③介護福祉科学生 計8名

サ. 給付型 第Ⅰ区分1名

シ. 第一種の貸与4名

ス. 第二種の貸与3名

13. 保育士等修学資金貸付金の貸与を受けいる学生

こども学科1年生3人、2年生1人

14. 生命保険協会奨学金の貸与を受けいる学生

こども学科2年生2人

15. 介護福祉士等修学資金貸付金の貸与を受けいる学生

介護福祉科1人

IV. 教育活動外の事業 国重要文化財建造物旧弘前偕行社（記念館）の運営管理

※ 本事業の実施にあたっては、新型コロナウイルス感染防止等を社会的情勢を考慮して、可能な限度において実施する。

1. 公開活用

重要文化財旧弘前偕行社を気軽に訪れ親しめる存在にする。

公開については、庭園（遑止園）も含む外観と内観の公開を基本とする。特に、近代の建築や歴史的な景観を構成していることから、見学を希望する方来館できるようにする。また、建築当初の経緯等について表示する。

一方、外観だけの公開にとどまらず、建物の内部も併せて公開する。ただし、弘前厚生学院の教育運営に支障がないよう所有者のプライバシー保護や建築意匠の性格の保持や管理について調整を図る。

2. 機能や用途の維持

旧弘前偕行社（記念館）の弘前厚生学院の校舎としての機能や用途を存続し、加えて観光客や一般市民の方による講演会、演奏会、展示会、結婚式や交流会などの多様なニーズに積極的に貸し出しを行うものとする。

特に、保存修理事業で復原した建設当時の機能や用途を保持するために創意工夫し、文化財としての価値を損ねないように努める。

3. 新しい機能や用途の付加

パソコンやタブレット端末、インターネットなどの情報通信技術を活用したICT化等への対応に努める。これは、新型コロナウイルス感染防止対策の観点からも公開活用の機会の拡大や記念館の魅力を広く伝える一助として有効となる。

4. 保存と活用の両立

文化財に新しい機能や用途を加えて活用する場合はもちろん、本来の機能や用途を維持するため、また文化財保護の要である保存と活用の両立を目指すため、文化財の現状を変更してはならない部分と、変更もやむを得ない部分を今後も検討する。

また、細部において価値の力点があるとみなされるものは、装飾的部材や特殊な技法・仕様に害がないように配慮する。

5. 運営課題

①重要文化財旧弘前偕行社は、一連の保存修理等を完了し開業に至ったが新型コロナウイルス等の感染予防のため、来館者に対する安全配慮が必要である。

②庭園の維持管理の、庭木の手入れ、草刈り等の作業量が莫大となっている。

③敷地内外周の雑木が近隣住民に悪影響を及ぼしている。

④新型コロナウイルス感染の影響により、見学者や催事の件数が少なく稼働率が低い。

⑤高圧電力の使用料が当初見込みより上回っている。

⑥予期せぬ小修理や維持管理のための経費を要する。

⑦駐車場を舗装していないため、雨や雪の時に入館者の靴の土砂が付着することで汚れる。

⑧敷地内の夜間における防犯対策が不十分である。

6. 指定文化財管理事業

国指定文化財の維持管理の促進を図るため、維持管理を行う所有者に対し補助金を交付し指定文化財の適切な管理を行うことを目的とした事業である。

①消防設備等の点検業務

②除雪業務 ※令和5年度は未実施

V. 事業 収益事業（収益事業会計）

1. 事業の概要

本来の事業に支障のない範囲において法人で所有する資産（土地、建物）及び教育的機能を活用して収益事業を行うものとする。

2. 事業内容等

- ①駐車場の有料貸し出し
- ②敷地や校舎教室等の有料貸し出し
- ③旧弘前偕行社（記念館）の見学者の受け入れ
- ④旧弘前偕行社（記念館）の催事等への貸し出し
- ⑤その他（自動販売機の設置等）

3. 学校法人弘前学院の寄付金募集 ※旧弘前偕行社の公開活用事業から拡充

弘前厚生学院の運営、遑止園（庭園）の整備、旧弘前偕行社（重要文化財建造物）の維持管理のために寄付金の募集を展開する。

- ①日本私学振興共済事業団の受配者指定寄付金に登録（法人向け）
- ②弘前厚生学院及び旧弘前偕行社ホームページに寄付金募集を掲載（個人向け）